

同窓会だより

●発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1

〒273-0002 TEL 047-422-2188

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/funaobog/>

●印刷 (株)サラト

姫路市北条宮の町172番地
TEL 079-284-1380

題字／小原天簫先生



母校はいま

早いもので、母校に着任して八年が過ぎようとしている。着任時は教員で唯一の二十代だったが、今年はおかげさまで下から四番目に昇格した。生徒との年齢差は二十歳ほどになり、自分の高校時代はずいぶん昔のこととなった。

当時は長いスカートをはいていた。船高に明確な規則はなかったが、ひざ下何センチとか床は何センチとかが一般的で、不良はくるぶし丈と決まっていた。髪形はいわゆる聖子ちゃんカットが流行していた。前髪を残してアップにしたところのリボンとくるぶし丈のソックスの色を合わせるのがおしゃれだった。

今の船高生はスカートが短い。ひざ上丈で紺のハイソックスを合わせるのが主流である。着任時はルーズソックスの生徒もいたが、ここ数年で絶滅した。スカート丈が特に短い生徒は階段を上るときには後ろを「がり勉バッグ」で押さえている。おしゃれと勉強が両立するのは今も昔も変わらない。

私が高校時代に最も印象に残っているのは体研(体育研究室)の先生方である。体研の先生方はみな個性的だった。体研に呼ばれて入室する際はこの上なく緊張したし、体研の外を通るときですら生徒は目が合わないように気をつけていたものである。

時代は過ぎて、今はその体研が私の職場になった。立場は変わり、体研に入室する生徒に緊張感を与え、目が合えば絡み、生活態度も厳しく指導している。高校時代の自分からは想像できなかった姿となった。男子が武道をやっている裏で家庭科を受けていた身としては、剣道の

先生として選択制男女共修の剣道のコマを週に九時間持っているのも感慨深い。全体の四分の一だった女子の割合も、ほぼ半分まで増えた。

変わるものもあれば変わらないものもある。ひとつは、学問に対する真摯な姿勢である。幅広い教養を身につけるため、二年生まで文理分けせずに、全員が多くの科目を履修している。また、解答技術というよりも本質的な理解が深まるような取り組みをしている。進学実績のため早くから絞り込む方法もあるだろうが、生徒の将来を考えると伝統的な船高のやり方に変わらない良さがあると感じる。

もうひとつは部活動や学校行事の盛り上がりである。生徒は部活動に熱心に取り組むとともに、たちばな祭、球技大会、陸上競技大会、合唱祭、ほととぎす祭、鎌倉遠足、修学旅行、かるた大会、武道大会などの行事にエネルギーを爆発させる。船高生はイベント大好き。時間をやりくりして充実した青春を過ごしている。

このような良さを求めて、毎年多くの中学生が船高を志望してくれている。入学すると、先輩たちの後姿を見て共に時間を過ごし、先生方に熱心に指導していただき、同級生と切磋琢磨しあいながら、いつのまにか「船高生」となっていく。卒業生には同じにおいがする。教え子たちがもう社会人として活躍している。この子たちは今でも船高が大好きだ。

不易流行。社会や教育が大きく変わる中で、私は船橋高校の「不易」を守りたい。平成二十一年度からは単位制に移行するが、船高らしさは残していきたいと切に願っている。

寄稿 山田美奈子

県立船橋高校 教諭

平成十二年着任 平成元年卒

同窓会の更なる発展を祈念して



同窓会長
小石 税
(昭和三十年卒)

師走を迎え、同窓生皆様におかれましては、公私にわたり、お忙しい中、お元気に活躍のことごとく拝察申し上げます。

記録的な猛暑が記憶に残る平成十九年、今年もいろいろなことがありましたが、母校の活躍には目を張るものがございます。

県から進学指導重点校の指定を受けた母校は、先生方の熱心な指導に在校生も努力を重ね、着々と実績を上げております。また、母校の現状をご紹介しましたように、陸上部、アーチェリー部を始めとする部活動の活躍も素晴らしく、母校船高の名は全国に轟いております。

同窓会といえども県大会や全国大会へ出場する生徒への支援・補助等を制度化しておりますので、在校生の活躍は本当にうれしいことと思っております。

さて、八月五日(第一日曜日)の同窓会総会で申し上げますが、今年が私の同窓会会長最後の年でございます。次期会長は三十四年卒の金子安雄氏にお願いし、総会でもご承認いただきました。

同窓会のお手伝いをさせていただき、かれこれ五十年、役員や会員の皆様に支えられて、職責を勤めさせていただきましました。改めて皆様に感謝申し上げますとともに、この最後の年に今後の同窓会活動への私の思いを申し上げます。

まず、昨年来申し上げている同窓生の弁護士、医師等専門家ネットワークです。益々複雑化し、専門的な知識が求められる昨今、安心して相談のできる医師、弁護士、会計士、各種分野のカウンセ

ラー等々各界で活躍する同窓生のネットワークを構築し、同窓会で登録いただき、同窓会は、相談を必要とする会員に、専門分野ごとに登録された同窓生を紹介するというもので、在校生に対する各種カウンセリングも必要と聞いていますので、このような仕組みは益々必要度が増していると思っております。

また、平成三十一年、学校百周年記念事業へ向けた体制の整備、事業協力金の使途を含めた同窓会の第一目的にこの事業を位置付けることも必要と考えています。

同窓生が一つになって、語り合う春の同窓会を永続し、年代も育った地域も、卒業後の進路も違い、世界中で活躍する会員諸氏が、同窓会に一つとなって集い、母校と同窓会の更なる発展に尽力くださるようお願い申し上げます。

重ねて、皆様のご厚情、ご協力に感謝申し上げます。ご健康、ご活躍をご祈念申し上げます。ありがとうございます。

ムツ釣り



校長
川名博志

私が親しくしている人にTさんがいる。リタイアして故郷に戻り、花作りや釣りを楽しんでいる。つい最近会った時、「ムツを釣るのに俺が行くが、隣の人は沢山釣るのに俺のには喰わない。『ガツン』ときたら、少しゆるめてやれ」と言われるが、どうもうまく釣れない。」と愚痴っていた。

ムツ釣りは、岩場から餌を付け

た錘付きの針を十〜十五メートル沖に手で投げ、ムツが餌を追いかけてくるところをテグスを引いて合わせる釣りである。餌は釣ったムツの胃袋や水溜まりに「ゲンパチ」という小魚など、言ってみれば疑似餌である。釣竿もいらず、餌もいらず

手軽だがなかなか難しい。私も子供の頃、下手を見かねた土地の古老に「お前は魚が口を開いている時に引く張るからだめだ、魚が口を開く時引く張るんだ。」と言われた。「何を言ってるんだ。」と思ったが、何せ相手の方が圧倒的に釣るので反論などできなかった。

餌を追うムツとテグスを引く

釣り手の微妙な呼吸が釣果を左右する。この呼吸というか間を覚えるところほど面白い釣りはない。

最近、コミュニケーション能力の欠如が取り上げられることが多い。ケータイ、パソコンの普及で、機械を介在したコミュニケーションになり相手との呼吸、間の大切さを見失っていることが大きな一因になっているような気がする。

ムツ釣りの呼吸を皆が体得すると人間関係もギスギス感がとれ、もう少し円満になるような気がしないでもない。尤もムツにとつては大迷惑だろうが...

船高



全日制教頭
足立欣一

本年四月に、県教育庁教育振興部指導課から着任しました。新設高校等の校舎とは違って、伝統を感じる教室配置やPTAの支援による教室冷房化等々、日々新しい感動と発見を続けながら勤務しております。

四月以降、進学実績についてやクイズ研究会部・オーケストラ部等々のマスコミ取材(読売新聞・日本テレビ・週刊朝日・地元船橋朝日新聞等々)が相次ぎ、嬉しい悲鳴をあげている状況です。特に「読売新聞」は、全国版連載記事の「高校タラフティ」(別題に五、六校の特集)の中で写真入りで大きく取り上げられました。マスコミの影響力は大きく、各方面から「船高」への反響の電話をいただきました。

県内各地の伝統校を地元では、「長(ちよう)高」、「木(き)高」、「二(に)高」、「大(だい)高」等々、卒業生・在校生・中学生等が「親しみ」と「憧れ」を込めて呼んでいる。船橋高校も長年同様に「船高」と親しまれ、ユニフォーム等の「FUNAKO」の刺繍文字が光っている。私は、JR東船橋駅を毎朝七時過ぎに通勤で利用している。エナメルバッグの大きな「FUNAKO」の文字が目飛び込む、「市船」のバッグに比べ躍動感を感じるのには、教頭の欲目でしょうか。

私も微力ながらこの「船高」発展のために貢献できればと思っております。同窓会の皆様の御支援をよろしくお願いたします。

よく遊びよく学べ



定時制教頭
中村嘉孝

本年四月、県立千葉商業高校より定時制の課程教頭として赴任してまいりました。初任の学校は千葉県立千葉聾学校で聴覚に障害を持つ四歳から二十歳までの生徒と八年保健体育科の教員として勤務しました。その後全日制の高校、通信制独立校のための準備室、そして定時制の高校と教員として様々な経験を積むことが出来ました。

最も印象に残っているのは初任の学校で、この頃に教員として鍛えられた気がします。障害を持ちながらも何とか健聴者と同じ土俵で戦う場所はないかというところで学校を挙げて部活動に励みました。引き継いだ女子バレーボール部は関東大会では九連覇、高体連では二度の県大会出場、身障団体では千葉県代表として優勝、中には世界大会に参加し、銅メダルを獲得した生徒もいました。

定時制の生徒の多くは働ながら学び、部活動に励んでいます。中には不登校や中途退学などの挫折感を体験した生徒もいます。一人でも多くの生徒が卒業できるような「生徒・保護者も職員も安心して学ぶことが出来る学校」を目指し、船橋高校の発展のため努力してまいります。

平成二十年

春の同窓会

ご案内

実行委員長 杉川 正
(昭和四十一年卒)

「春の同窓会」は今回で十四回目を迎えますが、例年どおり二月十一日・建国記念の日で開催します。

創立七十周年の記念行事を機に始めたこの「春の同窓会」は、諸先輩方のご努力と【幹事役は還暦を迎えた学年が担当する】という妙案で、幹事学年を中心に、旧制中学時代の先輩から、今春高校を卒業したばかりの後輩までが一同に会し、年々

船橋高校の歴史(十四)

学徒動員と学校教育の停止

元県立千葉高等学校教諭

小川 信雄
(昭和三十八年卒)

学徒動員とはアジア・太平洋戦争における戦時労働力の不足を補うためにおこなった学生・生徒にたいする強制的動員をいう。学徒動員を調べるために『創立五十年誌』を読んだ時に心に残った鈴木元雄氏(一九四七年卒業)の回想文があり、「ぼくらが船中の五年間に教室でまともな授業を聴くことが出来た総日数は五年年のうちやっと半分あるかなしかったという事実を誰がどのように評価するのだろうか。……ぼくは驚

盛大に催されています。

「県立船橋高校」の名の元に恩師を迎え、母校の近況や社会で活躍している旧友との再会で楽しく集う「同窓会」最大の行事です。

毎年三百人もの方々が参席し、恩師との親交や学年を越えた交流に時の経つのを忘れて、会場は正に船高一色に染まります。

今回の幹事学年は「団塊世代」の先陣で、世の中にいつも「うねり」を起し、話題を提供してきた問題の世代です。船高時代は電灯の乏しい・暗い木造校舎で学び、三年になって新築された鉄筋コンクリートの校舎に入れた最初の学年です。それから早や四十余年が経ち、大方が還暦と定年を迎えましたが、この「春の同窓会」開催の準備には各クラスか

くべき無実力のまま、しかもそれとほとんど気づかずに学校の外に放り出された(当時、早稲田実業高校教諭)とあった。私は後輩としても、また歴史を学ぶ者としても心が痛んだ。こうした状況を生んだ背景を考えてみたい。

日中戦争が一九三七(昭和一二)年七月に始まると政府は軍需生産の増強のために、工場法の就業時間の制限や休日の規定を修正・緩和して労働者の保護は機能停止となった。千葉県でも軍需労働係がおかれ、国民の「勤労報国の精神」「愛国心」に訴えて、軍需部門への労働力の動員をおこない、翌三八年一月、政府は物資動員計画によって繊維産業などの民需産業の休業・操業短縮をすすめる、その労働力を軍需産業へふりむけた。四月に職業紹介所を国営化し

らなる幹事役が数回にわたり実行委員会を開き、「ブレ同期会」を楽しまながら満を持してあります。

同期会は同期のNHKアナウンサー・宮田修君が当たる予定で、アトラクションは津軽三味線の「脩一郎&大地」の演奏と、例年とは一味違う演出で盛り上げようと思っております。

年に一度、旧友、恩師と語り合い、同窓生の輪を広げるには皆様の参加が不可欠ですので、是非とも皆様お誘い合わせのうえ参加していただき、懐かしき母校への想いと高校時代にタイムスリップし、またこれからの糧としましょう。

多くの方々のご参集をお願い申し上げます。

労働市場の統制をすすめた。同月、国家総動員法を公布し、国家総動員計画をたて、労働動員計画(四二年度以降は国民動員計画)を決定した。こうして国民徴用令が公布され、労働動員計画が遂行されて、小学校(四一年から皇国臣民の学校を意味する国民学校となる)、新卒者や農村の男子の労働力を軍需産業へ供給して、賃金を低額に抑える賃金統制令も強められた。そして植民地朝鮮から労働力動員(強制連行)がおこなわれたことも注意したい。

一九四〇(昭和一五)年一月になると政府は「勤労新体制確立要項」を決定した。この「確立要項」では、労働を「勤労」と讃えて労働者に対する差別意識や人格否定の考えを形式的に否定したが、中小商工業の転業・廃業者や女性の労働力にいつそ

う依存せざるを得なくなっていた。

そして四一年一月に「国民勤労報国協力令」が制定・公布され、一般国民を勤労報国隊に編成して重要産業への動員を強化した。勤労報国隊は臨時要員として、一四歳以上四〇歳未満の男子と一四歳以上二五歳未満の未婚の女子とされて、年間三〇日未満の動員への協力を要請されたが、これは「強制された自発性」であり、ここで軍需産業に女性も大量に動員されていくことになった。学生・生徒(男女ともに)は「学徒勤労報国隊」に編成され、全国で四三年には男子一七二八、四〇〇名、女子一、〇〇八、七〇〇名も動員されることになった。

日米開戦後、四三年一月には「生産増強勤労緊急対策要綱」を閣議決定し、国民の動員のさらなる強化をはかり、それを翌四四年一月に発展させて「緊急国民勤労動員方策要項」を閣議決定した。学校勤労報国隊については「学校在学者の勤労動員」を新しく指示している。これをうけて同年六月、「学徒戦時動員体制確立要項」が閣議決定された。これは「大東亜戦争ノ現段階ニ対処シ、教育錬成内容ノ一環トシテ学徒ノ戦時動員体制ヲ確立シ、学徒ヲシテ有事即応ノ態勢ヲラムルト共ニ、之ガ勤労動員ヲ強化シテ学徒忠志ノ至誠ヲ傾ケ、其ノ総力ヲ戦力増強ニ結集セシメントス」として、学徒動員を国家的強制によって「常備要員」とするものであった。四四(昭和一九)年二月の「決戦非常措置要項」(閣議決定)で「原則トシテ中等学校程度以上ノ学生生徒ハ総て今後、一年之ヲ勤労其ノ他非常任務ニ出動セシメ得

ル」とし、中学校二年以下と国民学校高等科にも通年動員の徹底をはかった。同年八月には学徒動員に法的な拘束力をあたえるために「学徒勤労令」も公布された。また女子学校の学校の校舎も軍需工場化が重視されていた。そして四五(昭和二〇)年二月、政府はすべての学校の授業停止を決定して、学徒動員は全面化して学校の教育機能は停止・崩壊していくことになった。

四五年三月に政府は「国民勤労動員令」を公布し、国民徴用令などの五法令をひとつにしたが、国民動員計画をたてることは中止された。労働力の供給源が皆無になったからである。同月、政府は「決戦勤労動員実施二閣スル件」を決定したが、主眼は国土の防衛、食糧増産をうたうもので、軍事生産力の拡充のために労働力動員をおこなうものではなかった。敗戦は間近となっていた。

そこで船橋中学校の『昭和十九年度 職員会議録』をみると、四月から千葉製作所(舟艇製造)に五年生、四年生(四学級)、市川合金と市川製鍛に三年生(各一学級)に通年動員となっていて、動員内容は千葉製作所のみが記録されている。それは労働時間は午前八時から午後四時。休憩時間は昼休み三〇分、午前・午後一〇分の休憩。休日は月二回で第一・二日曜日、当初は日曜日毎の休みとする。弁当は持参するが船橋市より特配がある見込み。控所は船中生徒専用所をおく。作業服は工場で用意する予定であるが、一着は無理。作業靴も工場で用意する予定であるが、当分は無理。定期券は工場側が購入して生徒に与える。手当は生徒

一人あたり月額五〇円を学校報国隊に支給し、授業料等を差引いた残額中より二五円だけ生徒に渡す。成績評定は一ヶ月に一回成績を記録し、学校側と工場側が協議して決定する。力点には勤労報国の精神、なるべく多数の職員が出動して生徒を訓育する、受入側の協力を得て教育錬成の徹底を図る、保健看護等については受入側と協力し災害を防ぐ、作業は一二時間をこえることはない、等がきめられている。生徒の登校日は千葉製作所、市川合金、市川製鋼ともに月二回とされ、教員も各工場に一二名が派遣されていた。

労働条件を検討すると相当に苛酷といわざるを得ない。作業が一二時間をこえることはないといふことは残業が常態であることを示すものであろう。また当時の工場労働者の賃金は月額一二〇円ほどであるから、不熟練労働力といつてもその半額にもおよんでいない。また賃金は学校報国団に一括支給し、その一部を授業料として差引いて、生徒には残り二五円を支給している。これは学校側が生徒から「収奪」したことになる。

しかし、四四年八月二日の第二学期始業に教員二名が応召されるなかでも、校長は「学校兵営化ナル精神ヲ進ミタイ」とし、さらに「学校長ノ方針ニ万事ヲ帰一統合」したいと軍国主義を鼓吹している。二年生には数ヶ月におよぶ通年動員がおこなわれ、一年生にも学校内の農作業などもあったようであるが、『会議録』以外の史料はななくはつきりしない。そして、四五年一月になると『会議録』には「各工場トモ生徒ノ欠勤多シ、疲労ノ故デアロウ」と記載されている。教育は機能停止していたのである。

参考文献 西成田豊『近代日本労働史』労働力編成の論理と実証(二〇〇七年四月、有斐閣)

恩師探訪

浅見先生は、昭和二十八年から五十六年までの二十八年間、本校書道教諭として教鞭をとられました。その後、和洋女子大学教授として大学教育にも貢献され、現在は(社)書星会理事長として会員の育成に尽力されています。浅見先生の実績は言うまでもありませんが、先日(旧)千葉日報五十周年式典において、県民の文化・芸術振興に尽力したとして感謝状を贈呈されました。

さて、我々船橋生としての浅見政美先生ですが、一番身近な作品といえればやはり学校の顔ともいふべき「門標」でしょう。書道部在籍の私としては、毎朝「門標」を見ながら登校するのが楽しみでした。また、職員玄関を入ると正面に大作の「永寿」が堂々と飾ってあります。こちらも素晴らしいものなので、ご来校の際には是非ご覧下さい。これは、昭和三十九年本館第一期工事の竣工時に、先生が一晩で書きあげたものだそうです。先生にとつても思い出深い作品のようでした。

今、私の手元には「浅見錦龍校内掲示物集」なる小冊子があります。これは昭和五十六年に芸術科の芝先生をはじめとする有志の先生方が作られたものです。「永寿」をはじめ卒業式等行事の看板、式次第、教室の表示等数々の掲示物が載せられています。先生の作品に囲まれて過ごした高校生活は、書を志す者にとつ

浅見錦龍 先生

とても恵まれていたと思います。

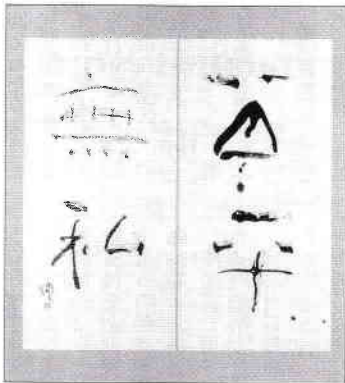
また、在任中は高等学校書道部会の委員長として部会の発展に寄与するとともに、現在の本校書道教諭の伊場英白先生をはじめとする多くの書道教員を育てられました。ちなみに昭和五十五年卒の座間騰膏(旧・春日京子)山田騰沸(旧・河内広美)も県立高校書道教諭として活躍中です。

この度、先生に同窓会だよりの掲載をお願いに伺ったところ、すぐに快諾していただき「同窓会だより」と「掲示物集」を「そうか、懐しいな…」としばし眺めていらつしやいました。先生の益々のご健康とご活躍をお祈り致します。



浅見 錦龍 (本名 政美)

プロフィール
 大正11年 前橋市に生まれる
 (社)書星会理事長
 日展参与
 読売書法会参事
 県美術会名誉会員
 千葉県文化功労者表彰
 勲四等瑞寶章受章



第59回県展 150cm×150cm

寄稿 田中恵康(旧・片山祥子) 県立船橋高校 主査 平成十九年着任・昭和五十五年卒



職員玄関 170cm×345cm



門標 30cm×100cm



相澤友夫 (昭和36年卒)



プロフィール
千葉県船橋市生まれ。現在、千葉県船橋市馬込町の関石友工業代表取締役社長、日本石材産業協会副会長。
地域での活動領域は広範囲に及び、船橋石材商工業組合組合長、千葉県中小企業家同友会代表理事、船橋東ロータリークラブ会長、船橋海老川開水市民まつり会長、全国優良石材店の会(全優石) 常任理事、国際交流協会監事などを歴任。

わが青春時代(昭和36年3月卒・F組)のひとこま

時は1960年、涼しさと静けさが訪れる10月上旬、夕刻の校長室であった。壁には威厳に満ちた歴代の校長の顔が飾られていた。

A・・・(先生、Xの担任の教師 何度も愛の鉄拳をいただいた。)

今日は君の人生にとって重要な時である。わざわざお母様をお呼びしたのは、君の学校内での不規則な態度が一向に変わらないからである。

B・・・(Xの学年主任)

A先生のお話が事実かどうか、またお母様の前で反省できるのか。私は君を信じたい。

X・・・(相澤・この時3年生) 無言...

X・・・(相澤の母親)

申し訳ございません。なにか息子がそれたことをしてましたのですか? A・・・これからお話しすることが「事実」

なにかどうか、そのことを認め反省されるのか、教師として確認をしたい。その結果によってXが船高の生徒として残れるかどうかが問われます。

(窓もカーテンも全て閉じられ完全に外から見えないようにされていた。涼しい風が外では吹いていたが室内はやけに暑かった。)

A・・・君はいつ頃から喫煙をはじめたのか? X・・・中学3年からです。

A・・・マー・ジャンはいつ頃からか? X・・・中学2年からです。母親が大のマー・ジャン好きで、手ほどきを受けました。(父も母も明治生まれであつたが両方とも大学を卒業して、かなり自由に育つたようだ。百人一首や万葉集と一緒にマー・ジャンも買えたといつていた。)

A・・・君はたびたび授業中に弁当を食べていたがお母様は朝、朝食を食べさせないのですか? X・・・(Xの母親)

息子は毎晩夜遅く帰宅し朝はギリギリ迄寝ていて、朝食をどろろに出かけてしまいます。他の兄弟は皆きちんと食べてから出かけてます。

(Xの2才上の姉は船高生で優等生として卒業していた。)

A・・・君はたびたび競馬場に入出入りしていると言われているがどうなのか? X・・・父親が大の競馬ファンで中山と船橋の両方に時々連れて行つてもらつています。(Xが両競馬場のちよつと真ん中にある海神に住んでいるのも幸い(?)した。)

A・・・君は新地(現在の本町2丁目あたり)に入出入りして酒を飲んでると聞かれていますか? X・・・はい。私の同窓生の親が酒場を開いているのでよく行きます。

(そういえば、その酒場は昼でも薄暗くて座席カバーが汚かった。それに比べて校長室のカバーは見事なほど真っ白でシミひとつなく、まさしくくらいだった。)

A・・・昼休みによく校外に出かけているがどこへいつているのか? X・・・無言...

(F組の同級生と学校のウラ側の壊れている垣根から外へ出ていた。そこから2、3分のところ集団就職で働く女工さんばかりの小さなガラス工場があり、そこで夜のデートの約束をしては上野公園などで校外学習の実習をしていた。)

また時あたかも60年安保闘争が盛り上がつていて、国会議事堂周辺のデモに度々参加した。兄が早大出身なので早大生の隊列に参加していた。その際、機動隊員の分厚い靴で腰をイヤというほど蹴飛ばされ、その時の傷跡で今でもイブから立ち上がる時などは骨がカリカリこずれる。痛みは今ではなくなつていて、うちにはXが固く握り締めていた真っ白なハンカチを顔にあて涙を拭いているのである。)

X・・・先生方に学校にこんなにも迷惑をかけていて誠に申し訳ありません。息子の処遇について親としては先生方に全てお任せいたします。涙...

X・・・スイマセン、ハンセイシマス。(生まれて初めて母親の涙を見た。)

私(まともな?)社会人になつたのは、結婚して子供が生まれた頃です。当時の私のようなものは弱肉強食の市場原理主義が市民社会まで一般化した現在では二度と浮かばれないでしょう。しかし、ダメだとレッテルを貼られた人間でも先生方や同級生は私を励ましてくれ、30才を過ぎてようやく「仕事」に就くことができました。小学校の恩師にも後押ししていただいた「石材業の世界に入りましょう。最初の一年はまるでダメでした。私が本気で「家族に責任を持つのだ」ということをわかつていただき、F組の同級生始め恩師の小滝先生、棟方先生、三橋先生や多くの先輩・後輩から続々と「お墓」を建ててもらいました。わざわざ先約を変更して仕事をさせてもらった同級生もありました。私はこの時本当の意味で「恩師」ということが理解できました。教師は学校内にいる時だけ「教師」ではなく、

教え子たちの「人生」そのものを心配して下さり人間としての歩みに支援してくれる、ということに心から感動を憶えました。

さて、F組の同級生たちの紹介も簡単に記したいと思つています。まずF組のダメグループ7人衆のその後ですが、卒業して46年の歳月が流れていますが社会人になつてからも毎年よく集まり、年1回は一泊旅行(ゴルフ・麻雀もかねて)を続けております。F組の同級生は大学教授2名、各中学校長3名、中小企業経営者6名その他一級建築士や国家資格を取得して立派な社会人になつています。別のクラスの時市長があまりにも強大であつた。船橋市長選挙に挑戦して見事選挙を果たし、今では父君の元市長、七郎様を上回る「名市長」として58万市民の先頭に立つています。そして36年卒の8クラスをその素晴らしいグループでまとめあげて

いるのが石井英君です。36同期会を4年に一度開催し、今も続けていただいております。その他たくさんおりますが別の機会に譲りたいと思つています。

ここでちょっと、私がなぜ同窓会に関わりを持つに至つたかをお話します。親に勘当(?)され船橋をしばし離れた私は8年ぶりに戻つてきて母校の恩師にごあいさつに行きました。そのとき小滝先生から「散々迷惑をかけたのだから、これからは世間様に恩返しをしなさい。同窓会も手が足りない」と聞いたので手伝つたらどうか」と言われたのがきっかけでした。その時の同窓会長は三橋光氏で、事務局を同級生のお兄様である平岡先生が本当に献身的に支えておられました。前会長の三井川幹雄先輩や現会長の小石祝先輩が三橋会長を援けて活動されておられました。

その後、70周年、80周年の創立記念行事にも取り組み、同時に『募金活動』もしました。わが学年は呼びかけ人代表として大野晏且君と藤代孝七君ががんばり、目標を大幅に上回り30数年ある中で常

に上位の募金ができました。花輪辺は思いが尽きず、若き日は悔いなくけり

この詩は校庭の一隅にある「中学の記念碑」に刻まれている一句です。私共最後の学年に多大な影響を与えていただいた三橋衛先生が最近『瑞玉小綬章』を賜わり、天皇陛下に御拝謁したことを記念したパーティーの席上で上記詩が披露されました。先生はこの詩を度々引用されると同時に船高のバックボーンである「専心研学」「自学自律」の精神をよくお話しして下さいます。

最後に私の近況を記します。自分の職業、そして地域の町おこし、まちづくりに専念しておりますが、私共(主に市内在住の主婦の方々20人位)の活動として、環境浄化・水浄化の願いをかけて海老川沿いに毎年20本ずつサクラ(20年3,000本)を植樹してきました。こつこつみんな楽しんでみながらやってきて、5年前に国土交通大臣表彰をいただきました。これは船橋市長が「住んでよかった船橋」をめざす願いでやってきたことですから、嬉しむことに次世代へのパトナツッチができてさうなのです。船高の卒業生たちで現役の大学生、岡直樹君たち(主に早大理工学部)が私共ロールモデルと一緒に活動を展開してくれ、運動を継続する確かな手ごたえと喜びを感じております。

若くして学べば壮にして為すあり。壮にして学べば老いて衰えず。

この格言は姉の同級生の広瀬孝吉先生から教えていただきました。現在の船高生は若くして学ぶことの楽しみを会得してはいますが、学生時代は人生の通過点に過ぎません。「専心研学」「自学自律」は生涯のテーマです。私も、現在65歳を過ぎましたが、心静かにして次世代の若き青年達と行動し、かつ楽しみたいと思つております。創立100周年事業に向けて若者たちと夢を語りたいと思つています。

同窓会事業報告

平成18年度 事業報告

18年度の事業に伴う決算は次表の通りです。

第2号議案

平成18年度一般会計収支決算報告書

1. 収入の部

科目	18年度予算	18年度決算	17年度決算	備考
繰越金	2,339,869	2,339,869	1,907,867	
会費収入(人会費)	1,140,000	1,137,000	1,182,000	本年度326名53 前年度1,120,000+40,000
掛かり金	0	0	0	
雑収入	20	1,112	17	前年度324名70
合計	3,479,889	3,477,981	3,089,884	

2. 支出の部

科目	18年度予算	18年度決算	17年度決算	備考
会費徴収	30,000	53,550	45,550	
役員会	130,000	80,675	99,382	
酒席雑費	50,000	17,150	16,100	
印刷費	100,000	71,752	69,379	
消耗品費	20,000	0	0	
小什費	20,000	10,000	10,000	学生会内貯金返付
預金支出	450,000	698,000	306,500	預金支出(準備金)
卒業記念費	100,000	89,163	101,409	卒業証書贈
賞励金	10,000	0	0	
総務企画費	50,000	20,000	70,000	クラス会補助4件
交際費	20,000	0	0	前年度・事務局長謝辞
会費	20,000	0	0	
表彰費	50,000	30,000	10,000	小石会長表彰券券
事務経費	60,000	18,500	21,695	交通費等
予備費	100,000	0	0	
前期繰越金	2,239,889	2,389,191	2,339,869	
合計	3,479,889	3,477,981	3,089,884	

3. 財産目録

一般会計積立金	700,000	郵便局定期貯金	
積立金利息	81,149	H19年3月末(振引き後)	
合計	781,149		
自動車1台	16年3月購入	トヨタハイエースV(中古車100万円)	所有権船橋 貸借船橋 小石会長 +保険 学校法人 日本興業銀行 対人型貯蓄保険料 41,900円 PTA会費 +車検費用 PTA会費
同窓会書籍1冊			

平成18年度特別会計収支決算報告書

特別会計1 春の同窓会基金

1. 収入の部

科目	18年度予算	18年度決算	17年度決算	備考
前期繰越金	400,000	400,000	400,000	
会費等収入	2,600,000	2,450,000	2,520,000	本年度243名 前年度249名
利息	10	9	10	
合計	3,000,010	2,850,009	2,920,010	

2. 支出の部

摘要	18年度予算	18年度決算	17年度決算	備考
会費	2,000,000	1,882,965	1,862,465	本年度243名 前年度249名
PTAアクション	100,000	100,000	100,000	
酒席費	100,000	100,000	100,000	
新春早午打合せ費	100,000	100,000	100,000	
運営費	50,000	50,000	50,000	名札・参加者名簿等作成
同窓会会費	50,000	50,000	50,000	
特別会計2への繰出	200,010	167,044	257,545	
次期繰越金	400,000	400,000	400,000	
合計	3,000,010	2,850,009	2,920,010	

特別会計2 事業関係

1. 収入の部

摘要	18年度予算	18年度決算	17年度決算	備考
前期繰越金	5,972,906	5,972,906	6,309,858	
事業協力金	2,500,000	2,479,270	2,551,560	入金件数16件154円57分50秒
会員名簿販売代金	0	0	0	
秋の同窓会より	0	200,000	0	
特別会計1への繰入	200,010	167,044	257,545	
利息	200	240	103	
合計	8,673,116	8,819,460	9,119,066	

2. 支出の部

摘要	18年度予算	18年度決算	17年度決算	備考
「同窓会だより」発行	2,250,000	2,340,259	2,342,479	発行部数1364部(印刷部通 部費) 発行部数1364部(印刷部通 部費)
振込手数料	1,000	525	840	
送付費	120,000	98,800	146,565	前年度分送
名簿管理費	15,000	0	13,440	ラトテーター出力等
理事会会費	50,000	17,000	28,000	
ホームページ関連	200,000	111,569	83,356	
特別奨励金・報奨金	120,000	30,000	500,000	奨励金11人+1万円+1万円×2
雑費	30,000	0	1,480	
学校寄付金	600,000	525,000	0	空振り
秋の同窓会補助金	0	200,000	0	
予備費	30,000	30,000	30,000	前年度功勞券
前期繰越金	5,257,116	5,466,307	5,972,906	繰入金庫* 5月12日監査確認
合計	8,673,116	8,819,460	9,119,066	

▽ どうして留学しようと思ったのですか
外国が好きだからです。自分の国にいと外からしか見られないので、留学して学校に通い、その国の日常生活を知ろうと思いました。

▽ 日本で日本を選んだのですか
日本の歴史や音楽やアニメやマンガに興味があったからです。

▽ 日本はどうですか
とても好きになりました。字幕つきの映画がたくさんあってびっくりしました。ドイツは吹き替えがほとんどなので。



船橋高校には毎年留学生が来ます。4月から12月まで一般の生徒と同じように学校生活を送ります。今年にはドイツからイナ・ハメルさんをお迎えしました。2年F組に在籍して、剣道部に所属しています。イナさんにインタビューしました。

(協力：剣道部)

▽ 留学して大変だと思うことは何ですか
通学が朝早く、夜遅くになってしまふことです。大網白里に住んでいますので、部活の練習やクラスでみながら分かっていくの自分だけ分らないときは辛いです。

▽ 将来はどうしたいですか
他の国の大学に行きたいです。



▽ 船橋高校はどんな印象ですか
イベントがたくさんあります。テストがまとめてあることにはびっくりしました。ドイツでは先生が自由にバラバラでやっています。あと、掃除を自分でするのにも驚きました。

▽ 留学してよかったと思うことは何ですか
新しい友達がたくさんできたことです。日本語も分かるようになりました。

▽ 留学して大変だと思うことは何ですか
通学が朝早く、夜遅くになってしまふことです。大網白里に住んでいますので、部活の練習やクラスでみながら分かっていくの自分だけ分らないときは辛いです。

同窓会事業報告

平成18年度事業報告

17年度と同窓会人会の値上により、在校生への部活動への援助は普通会計、同窓生の活躍及び学校活動協力に関する援助は特別会計と区分することが出来ました。このため、18年度普通会計の団体支出金が増高しております。団体支出金が多いのは、活発な活動を支援する意味で喜ばしいが、予算に限りがあるので、個人の援助額が一万円を限度とすべきではないかという指摘があり、調べましたところ実際には重複しておりませんでしたが、団体の中に個人での援助受給者がいる場合、個人援助額が平均として、1万円を超えないように調整して支給するものと、団体援助金は上限枠として運用すること致しました。尚、団体といっても少人数から100名を超える規模の違いや大会により行政より助成があるケースもあるなどから、他高校の例なども検証し、過去の支給実績を調査したり、部活顧問の意見を聞くなど、時間をかけて検討することとしております。

又、18年度PTAの負担で学習教室にエアコンが寄付されましたが、教師の会議室につきましては同窓会より寄付いたしました。同窓会として今後も教育環境に微力ながら貢献をと考えてますが、その原資たる事業協力金は徐々に減減しており、何らかの方策を今後とも

20年度役員体制予定
20年3月に現役員任期が終わる為、役員改選案が以下承認されております。新役員・事務局体制は以下のようになります。

会長 金子安雄 昭和34年卒
副会長 専務理事 天羽生豊 昭和35年卒
副会長 事務局長 鶴岡義明 昭和40年卒
副会長 定時制同窓会長 田辺幸一 昭和41年定卒
監事 松永修巳 昭和33年卒
監事 中野孝昭 昭和38年卒
事務局次長 鶴岡義明 昭和40年卒
事務局次長 高橋政嗣 昭和48年卒
事務局次長 福島真知世 昭和35年卒
事務局特別会計 高橋政嗣 昭和40年卒
事務局特別会計 子安啓司 昭和40年卒

このため、小石税金会長及び中村嘉寿監事、事務局次長は20年3月までの任期となります。

講じていく必要があります。尚、定時制同窓会の立上げ費用等に支出された20万円は、会費制で多くの定時制同窓生が参加されたこともあり、同額を寄付金として頂いております。

19年度には式典オブジェ(ステージ装飾)の老朽化に伴い、まず入式用につきオブジェ復元の素材費用として、同窓会より20万円の資金援助を予算化し、6月の理事会で承認されました。

母校の現況

●全日別の部活動 ●運動系部活動の番号の区分 ①18年度新人大会(県大会) ②19年度関東大会予選 ③19年度県高校総体(県大会) ④その他

●運動系部活動 ●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

●女子バレーボール部 ①男子バレーボール部 ②女子バレーボール部 ③男子バレーボール部 ④女子バレーボール部

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

個人D 平井・柴野組出場 ③男子個人S 平井・柴野組出場

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

●その他 放送委員会 第19回千葉県高文連放送コンテスト

日本ジュニア・ユース大会に出場して 陸上競技部 木野真器

自分にとって初めての全国規模の大会であつた今回の日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会。僕は最高のコンディションで100メートルを走りきることができなかつた。

今年の六月一日、南関東陸上競技大会100メートル予選。ここで僕は10秒81を出した。しかし、日本ユースに出るための参加標準記録は10秒80である。たった0.01秒差だが、記録を切っていないため出場権は得られなかつた。

この日から僕は10秒80を意識し始め、記録を狙いに躍起になって練習し、大会に臨んだ。ところが、向かい風に阻まれ、参加標準記録を突破できず、日にちだけが過ぎていった。

そして迎えた九月二日、県新人大会。残るチャンスは予選・準決・決勝の三回だ。その予選は僕は10秒80を出し、参加標準記録を突破した。この時の嬉しさ、感動は今でもはっきりと覚えている。

十月二十日、日本ユース当日。会場は大分県の九州石油ドーム。高速トラックで好記録が狙える立派な競技場である。グラウンドコンディションは良く、体も思うように動いた。まずは自己ベストを、と意気込んで予選を走った。

スタートはうまく決まり、そしてそこから中間疾走まで完璧だった。しかし60メートル付近で、以前怪我をした左足首が猛烈な痛みを覚し、足をうまく接地できず、最後まで全力疾走をすることができなかった。

くやし。悔いだけが残る。あんなに苦勞して掴み取った全国の舞台。本当にくやし。また、このくやしさは自分だけのものではない。支えてくださった顧問・セコンド、また応援してくださった皆さん。本当に申し訳ない。

「怪我」はスポーツの強敵である。改めて思った。それを防ぐためのタフな体を冬に鍛えて成長し、自分のコンディションを整え、今回の借りを返すべく、来年のインターハイでの優勝を目指して頑張りたい。

来年のインターハイでの優勝を目指して頑張りたい。

全国大会に出場して 将棋部 馬屋原 剛

「ピッ、ピッ、ピッ」秒読みの電子音が聞こえる中、何度も読み筋を確認しながら、駒を盤面に打ちつけた。その手は震えていた。そして、相手が投了を告げ全国大会出場が決定した。

はつきり言って、自分が優勝できるなんて夢にも思っておらず、正直信じられませんでした。自分が出場しても実力不足ではないのか、とも感じましたが、全力を尽くすしか心に誓いました。

全国大会前日の選手歓迎会では、プロ棋士同士の対局を初めて間近で見ることができました。とても迫力があり、また「読み」の深さに圧倒されました。予選は二勝で突破、二敗で失格というものでした。なんとでも決勝トーナメントに勝ち進みたいと思いました。

初戦は、中盤でチャンスを通し、逆に不利になってしまいました。それでも粘り強く指していき、一瞬逆転したかもしましたが、二戦目は負けを引きずらずに指せ勝利を収めることができました。三戦目は、これで進出が敗退が決まるためと緊張しました。定跡通りには進行せず、手探りの状態で駒組が続きました。しかし、攻め急いでしまったため、反撃が厳しく逆転できずに負けてしまいました。

予選は突破できなかったものの、その後の敗者同士のトーナメントで二位になったり、宿舎で夜遅くまで将棋を指したりと、全国レベルの自分と同じ高校生達と過ごせて本当に良い思い出となりました。

今回、全国大会に出場できたのは、何百回と対局してきた将棋部の仲間、将棋部の指導や細かい所まで面倒を見て下さった先生、そして家族の支えがあったからだと思います。皆さん本当にありがとうございます。

ありがとうございます。



ありがとうございます。

おたより彼れ是れ

加藤 孝(旧職員)

各界で活躍するOB、OGに関心を寄せております。私自身は傘寿を迎え、老骨が壊れない程度に鞭打って生涯学習のサークル活動(拓本採取、掛け軸づくり(表装)や、民話・相撲・甚句教室で仲間と大きな声を出すなど)を楽しんでいます。

富田 紘志(昭和36年卒)

「同窓会だより」の記事の充実に感謝致します。文武両道の県船健児女のクラブ活動業績に嬉しく思っています。放送委員会最優秀賞、合唱部金賞、将棋部団体優勝、等々益々の健斗を祈る。

浅野 壮士(昭和61年卒)

つい先日卒業したつもりでいたのに、もう卒業後20年も経ってしまいました。あちこち転々としていたので、同窓会だよりを初めて受けとり、感慨に更けております。

西ノ久代(平成2年卒)

転職した先での上司は、偶然、OBであることが判明し、すぐに意気投合しました。母校の存在は大変大きなものとなっております。船高に感謝!!

飯田 郁夫(昭和29年卒)

29年卒の絵画部員です。平成18年1月12日に船橋西武デパート7Fで開催された船高美術家展を見ました。素晴らしい作品を鑑賞後、坂田先生にお会いしました。

古閑 由利(昭和30年卒)

卒業して52年。二人の息子も卒28年と卒26年になり、月日の流れをなつかしく思いかえしています。6人の孫から幸せ一杯もらう日々です。

宮本 恭子(昭和55年卒)

「劇団ひとり」さんも船高出身で、色々な方面で活躍されているOBがいて嬉しんでいます。

大場 敬一(昭和28年卒)

平成18年11月23日、定時制、秋の

同窓会。を開催することが出来ました。船高同窓会役員の方、又、皆さんのおかげと感謝いたします。これからも宜しくお願いいたします。

西山 隆造(昭和21年卒)

県船昭17会の会報には4回も書かせてもらっています。石田明也氏の編集になるもので事務局の方も是非会報(現在で8号)をごらん下さい。立派な会報ですよ。

植竹 由紀(平成4年卒)

会報に友人が2人も載っていて船高で働いているとのこと、うらやましく思っています。社会人になって10年、友人達が各々どんな道を行っていかの知りたくになりました。

渡辺 篤(平成4年卒)

同窓会だよりを拝見させていただいたところ、知っている同期の方が船高の先生を勤めているという記事を見つかり、なつかしく思いました。

沼田佐智子(昭和34年卒)

33年間の岡山生活でしたが平成18年3月に東京に帰って来ました。船高の廻りにも行って見ましたが大分変わりましたね。

小井土 清(昭和25年卒)

私達のクラス会1944-1950在籍者からなる「青大根相友会」は数年間隔で開催されるが、昨秋20回目を会員の経営する「割烹まる」で青柳、須田両恩師を迎え行われた。

昨年、戦時中の勤労動員体験もNHK、朝日新聞等で放映、記載され、市川市の協力でミュージカルにも上演され充実した年でした。

70歳半ば過ぎの会員は病氣もちはばかりですが、次回の再会を期し元気に楽しく島倉未知子(昭和49年卒)高橋生クイズのテレビを見ました。懐しの船高の先輩を応援していました。

志賀 直輔(昭和31年卒)

昨年は31年卒業生(50周年)記念周年にはじめて参加して大変有意義でした。

市角 照男(昭和30年卒)

毎月11日は恒例の集会有り、同時

刻なので、いつも残念に思っています。同窓会だよりは、楽しく読ませて頂いています。今後共、皆様の健斗、期待して居ります。

竹内 正(昭和27年卒)

同窓会の案内をいただき、久しぶり「同窓会だより」を拝見した。船高時代テニスをやっていたので、部活動が気になった。県大会32位は一寸残念、我々の時代は県代表でした。がんばればテニス部!!

尾上 由香(昭和53年卒)

なつかしい久保浩二先生のお話がついており、時間が、まきもどされたように感じました。いつもあたたかい目でみまもっていてくださった様に感じます。あらためてありがとうございます。

一谷 恵子(昭和49年卒)

卒業後30周年をきっかけに「49会」が発足され、同期会も2回開催されました。次男も今年、本校を卒業し、同じ同窓生になりますが、やはり母校に対する愛校心はいつになっても変わらないものです。

深沢 吉栄(昭和20年卒)

タイ(当時シヤム)と日本の友好関係懐かしく想い出されます。昭和の初期か、大正か、シヤム(タイ)の留学生が居たことを耳にしております。当時の東京日日新聞?に船橋中学校の校旗に白象が掲げられているのを見た記憶があります。

今井 正子(昭和30年卒)

当時のテニス部員は10人足らずで細々と練習をやっていました。素振り100回運河と呼ばれていた赤土のコートにローラーを掛け海の見える小高い山の松林を走らされたもので、以前同窓会に出席しましたが知らない人ばかりで浦島太郎ならぬ浦島花子気分でした。

平澤 備敏(昭和28年卒)

橋球会(バスケット部)の総会を過日行ない、第二代会長は大塚氏となりました。

山崎 光子(昭和28年卒)

今年一月から寝たきりになった母と

暮らしています。十二月二十一日で97才になりました。先生始め皆様によろしく。

佐藤 吉幸(昭和54年卒)

天体観測ドーム、平成4年度に移転したので、知りませんでした。在学中、地学の授業中に一回だけか入れさせてもらえなかったなあ。

青山 孝子(昭和49年卒)

いつもお世話になりました。ありがとうございます。長男が今年船高に入学し、今では父兄として船高に行くことができ、懐かしさでいっぱいです。

江東 忠夫(昭和39年卒)

61歳。現役続行のため週1〜2回、1,000〜2,000メートルの水泳を楽しんでおりますが、引退の晩には、毎日1,000メートルを泳ぐのが目標です!

石井 茂(昭和38年卒)

小学校教員を37年間続け、退職いたしました。今は孫と散歩をしたり、のんびり過ごしております。

編集後記

▽今年には船高バレーボール部が創部六〇周年を迎えるそうです。OGの一人として、また、現顧問の一人として、その歴史と伝統の重さに身の引き締まる思いです。思えば、私が現役の時も先輩方(とはいえ、当時既に高校生とは程遠い年代の方々がいました)がよく練習を見に来て下さいました。現在も合宿のたびに多くOGが駆けつけ、合宿を手伝ってくれています。これからもOB、OGの皆様の期待に応えられますよう、頑張りたいと思っております。

▽昨年「同窓会だより」の巻頭言を書かせて頂きました。高校卒業後ほとんど連絡をとっていない友人们から手紙をもらったりして、思いのほか反響が多く驚いているところです。私自身が懐かしいと思う気持ち

羽生 信義(昭和46年卒) 久しぶりに陸上部長から佐藤充君のインターハイ出場の連絡をいただき、大変うれしく思います。今年の創部60周年記念の会を楽しみにしています。

高木 文子(昭和31年卒)

卒業して50年も過ぎてしまいました。亡くなった同級生も何人かいます。当時をしのび時々校歌を口ずさんでいます。

海老沢捷生(昭和31年卒)

同窓会親睦ゴルフの参加者が第4回時に29名と少なかつたが今後はもっとPRに努め大勢参加される様にしてほしい。

石田榮仁郎(昭和39年卒)

同期の仲間も一人、二人と退職し、第2の人生を歩んで(楽しんで)おられるようですが、我々の職業は職に就いたのが遅いこともあって、もう少し頑張らないとなりません。船高の益々の発展と同窓生皆様のご多幸をお祈り致します。

ちももちろんありますが、みんなが船高を懐かしみながら「同窓会だより」を読んでもらえていることが、大変嬉しく感じられました。船高を卒業して十六年、そろそろ当時の仲間と会ってみたいと思う今日この頃です。同期会でもやりませんか? (平成四年卒・T)



学年会、クラス会、クラブ会、事業報告のコーナーを希望される方は「同窓会だより」係へ原稿を郵送してください。同窓会だよりは、毎年12月上旬発行となりますので、原稿は8月末日を締め切りさせていただきます。

なお、卒業年、担当者氏名、電話番号を記載願います。お送りいただいた内容について、担当者の方と調整させていただきます場合がございます。